

MAKE THE
WORLD SEE

Milestone Systems

XProtect® Incident Manager 2022 R3

マニュアル



目次

著作権、商標、および免責条項	5
サポートされるVMS製品とバージョン	6
概要	7
このマニュアルについて	7
XProtect Incident Manager（説明付き）	8
新機能	9
XProtect Incident Manager 2022 R3の新機能	9
ライセンス	10
XProtect Incident Managerのライセンス（説明）	10
XProtect Incident Managerのライセンスをアクティベートします。	10
要件と注意事項	11
システム要件	11
モーション検知が必要	11
XProtect Incident Managerの使用ポート	11
ログへの記録とSQLデータベース	12
システム アーキテクチャ	13
クラスタリング	14
XProtect Incident ManagerおよびMilestone Federated Architecture	14
使い始めるの概要	14
インストール	16
XProtect Incident Managerのインストール（説明済み）	16
XProtect Incident ManagerおよびLog Serverサービス	16
設定	17
Management Clientのインシデントプロパティ（説明）	17
インシデントプロパティの使用方法和定義方法のシナリオ	17
シナリオ	17
シナリオ： インシデントタイプを使用して人身事故の被害者を特定する	18
シナリオ： インシデントカテゴリーを使用して人身事故の発生原因と発生場所を資料化する	20
シナリオ： インシデントデータを使用して人身事故件数と追加の状況情報を文書化する	23
インシデントタイプを定義/編集する	24

インシデントステータスを定義/編集する	25
インシデントカテゴリを定義/編集する	26
インシデントデータを定義/編集する	27
レポートの設定を定義/編集する	28
XProtect Incident Managerの機能およびユーザーインターフェイス要素に対する権限を指定する	28
ユーザーインターフェイスの詳細	29
インシデントプロパティ（インシデントノード）	29
インシデントプロパティタブ	29
グローバル設定タブ	30
インシデントタブ（セキュリティ > 役割ノード）	30
操作	32
XProtect Incident Manager（使用）	32
インシデントプロジェクトとインシデントプロパティ（説明）	32
インシデントプロジェクトの作成	34
インシデントプロジェクトの作成（説明）	34
インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成する	35
インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する	36
新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する	36
新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する	37
ビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する	38
インシデントプロジェクトの編集	39
インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する	39
シーケンスを1つ追加する	39
複数のシーケンスを追加する	40
ステータス、コメント、その他プロパティを変更する	40
インシデントプロジェクトからシーケンスを削除する	41
インシデントプロジェクトをフィルター検索する	41
インシデントプロジェクトでビデオを表示する	42
インシデントプロジェクトのユーザーアクティビティログを表示する	42
インシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する	43
インシデントプロジェクトをエクスポートする	43
インシデントプロジェクトを削除する	44

トラブルシューティング	45
XProtect Incident Manager (トラブルシューティング)	45
システムログファイル	45
XProtect Smart Clientのメッセージ	45
用語集	47

著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2022 Milestone Systems A/S

商標

XProtectはMilestone Systems A/Sの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。AndroidはGoogle Inc.の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/Sは、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細はお使いのMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル3rd_party_software_terms_and_conditions.txtを参照してください。

サポートされるVMS製品とバージョン

このマニュアルでは、次のXProtectVMS製品によりサポートされる機能が記載されています。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert
- XProtect Professional+
- XProtect Express+

Milestoneは、上記のXProtect VMS製品の現行のバージョンと以前の2つのバージョンを使用して、本書に記載されている機能をテストします。

新しい機能が現在のリリースバージョンでのみサポートされており、以前のリリースバージョンではサポートされていない場合は、機能の説明にこれに関する情報が記載されています。

概要

このマニュアルについて

このマニュアルは、XProtect Incident Managerアドオンを利用するシステム管理者、インテグレーター、およびオペレータ向けのガイドであり解説です。

XProtect Management Clientでは、システム管理者およびインテグレーターは、ユーザーの権限、およびXProtect Smart Clientのオペレータがインシデントプロジェクトと権限に割り当てることができるプロパティを設定/構成することができます。

XProtect Smart Clientのオペレータは、インシデントプロジェクトを日常的に作成およびメンテナンスすることができます。

このマニュアルではユーザーインターフェイスのすべての要素は、画面に向かって左から順に配置されていると想定しています。

このマニュアルの他の章の内容

概要の章

XProtect Management ClientおよびXProtect Smart ClientにおけるXProtect Incident Managerとその機能（現在のリリースの新機能を含む）について説明しています。

ライセンスの章

このチャプターでは、XProtectIncidentManagerに関連するライセンスおよびXProtectManagementClientでのライセンスの管理方法についてシステム管理者とインテグレーターが理解しておく必要があるすべての情報を説明しています。

要件と注意事項の章

XProtect Management ClientおよびXProtect Smart ClientのXProtect Incident Managerをインストールするに当たってシステム管理者およびインテグレーターが知っておくべき詳細事項を説明しています。

設定/構成チャプター

このチャプターは、システム管理者とインテグレーターを対象としています。インシデントのタイプとステータス、カテゴリーの定義方法を学ぶことができます。これらはまとめてインシデントプロパティと呼ばれ、XProtect Management Clientで定義することができます。インシデントプロパティは、XProtect Smart Clientのオペレータがインシデントプロジェクトをカテゴリー分類して管理するのに役立ちます。

操作の章

オペレータがXProtect Smart Clientでインシデント関連の機能を使用する方法について説明しています。例えばインシデントプロジェクトの開始と保存、インシデントプロジェクトへのデータの地価、インシデントプロジェクトのエクスポート、レポートの作成などの操作です。

トラブルシューティングの章

XProtect Smart Clientのさまざまなメッセージの意味およびシステム管理者が直面する潜在的な問題を解決する方法も含まれています。

XProtect Incident Manager (説明付き)

Milestoneは、追加機能を与えるため、XProtectを統合したアドオン製品を開発しました。アドオン製品へのアクセスは、ご自身のXProtectライセンスファイルで制御されています。



使用可能な機能は、使用しているシステムによって異なります。すべての機能に関するリストをご確認ください。リストは、Milestoneウェブサイト (<https://www.milestonesys.com/solutions/platform/product-index/>) の製品概要ページで提供されています。

XProtectIncidentManagerは、インシデントを資料/文書化して、それらインシデントをXProtectVMSの設置先からのシーケンスエビデンス（通常はビデオだが音声も可）と組み合わせることを可能にするMilestoneのアドオンの1つです。

XProtect Incident Managerのユーザーはインシデントプロジェクトのすべてのインシデント情報を保存することが可能です。インシデントプロジェクトから、各インシデントのステータスとアクティビティを追跡することができます。このようにして、ユーザーはインシデントを効果的に管理し、内部的には同僚と、外部的には当局と強力なインシデントのエビデンスを簡単に共有できます。

XProtect Incident Manager は、調査対象の場所で起きているインシデントを概観および理解するのに役立ちます。この知識により、組織は同様のインシデントが今後発生する可能性を最小限に抑えるための手順を実装できます。

XProtect Management Clientでは、組織のXProtect VMSのシステム管理者は、XProtect Incident Managerにおいて使用可能なインシデントプロパティを組織のニーズに合わせて定義することができます。XProtect Smart Clientのオペレータはインシデントプロジェクトを開始、保存、管理し、インシデントプロジェクトにさまざまな情報を追加することができます。これには、フリーテキスト、システム管理者が定義したインシデントプロパティ、およびXProtectVMSからのシーケンスが含まれます。完全なトレーサビリティを実現するために、XProtectVMSは、システム管理者がインシデントプロパティを定義および編集するとき、およびオペレータがインシデントプロジェクトを作成および更新するときにログを記録します。

新機能

XProtect Incident Manager 2022 R3の新機能

- XProtect Incident Managerアドオンは、XProtect Expert、XProtect Professional+、およびXProtect Express+のバージョン2022 R3以降にも対応するようになりました。
- XProtect Incident Managerは10,000件以上のインシデントプロジェクトを表示できるようになりました。

XProtect Incident Manager 2022 R2の新機能

- このアドオンの最初のリリース
- XProtect Incident Managerアドオンは、XProtect Corporateのバージョン2022 R2以降、およびXProtect Smart Clientのバージョン2022 R2以降で使用することができます。

ライセンス

XProtect Incident Managerのライセンス（説明）

XProtect Incident Manager には、以下のライセンスが必要です。

- **基本ライセンス** - XProtect Incident Managerの完全利用にカバー

XProtect Incident Managerの使用は、以下のVMS製品およびバージョンでのみサポートされています。

- XProtect Corporate 2022 R2以降：XProtect Incident Managerの基本ライセンスが付属しています
- XProtect Expert、XProtect Professional+、およびXProtect Express+ 2022 R3以降：XProtect Incident Managerの基本ライセンスは別売りです

XProtect Incident Managerのライセンスをアクティベートします。

XProtect Corporateのバージョン2022 R2またはそれ以降をご使用の場合は、XProtect Incident Managerのライセンスが含まれ、お持ちのXProtect VMSのライセンスと共にアクティベートされます。

既存のXProtect Expert、XProtect Professional+、XProtect Express+バージョン2022 R3以降のインストールに対してXProtect Incident Managerを購入した場合、単に新しいライセンスを有効化してください。

ライセンスをアクティブ化する方法に関するセクションも XProtect VMSシステム管理者マニュアルで参照してください(<https://doc.milestonesys.com/2022r3/ja-JP/portal/htm/chapter-page-mc-administrator-manual.htm>)。

要件と注意事項

システム要件

XProtect Incident Managerアドオンのシステム要件は、XProtectVMSおよびXProtect Smart Clientのシステム要件と同じです。

さまざまなVMSアプリケーションおよびシステムコンポーネントのシステム要件についての情報は、Milestoneウェブサイト (<https://www.milestonesys.com/systemrequirements/>) をご覧ください。

モーション検知が必要

XProtect Incident Manager関係の機能で、シーケンスの録画をトリガーする機能はありません。また、トリガーするように設定することもできません。

XProtect Smart Clientのオペレータがカメラからの関連シーケンス録画をインシデントプロジェクトに追加できるようにするには、カメラのモーション検知を有効にします。インシデントが発覚した場合、モーションが発生します。モーション検知を有効にしている場合は、インシデントプロジェクトにシーケンスとして追加録音/録画されます。

XProtect Incident Managerの使用ポート

XProtectIncidentManagerサービスおよびそのサーバーコンポーネントは、着信接続に以下のポートを使用します。

ポート番号	プロトコル	プロセス	接続元	目的
80	HTTP	IIS	XProtect Smart Clientおよび Management Client	<p>80番ポートと443番ポートの目的は同じです。ただし、VMSがどのポートを使用するかは、通信の安全性を確保するために証明書を使用したかどうかによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 証明書による通信のセキュリティが確保されていない場合、VMSは80番ポートを使用します。 証明書で通信を保護した場合、VMSは443番ポートを使用します。
443	HTTPS	IIS		

VMSが使用するすべてのポートの概要は、XProtect VMSシステム管理者マニュアル (<https://doc.milestonesys.com/2022r3/ja-JP/portal/html/chapter-page-mc-administrator-manual.htm>) を参照してください。

ログへの記録とSQLデータベース

SQLデータベースとデータの保存

XProtect Incident Managerは、Surveillance_IMという独自のSQLのデータベースを持っています。Surveillance_IM SQLデータベースにはすべてのインシデントプロジェクトに関する情報、インシデントプロジェクトに追加されたデータ、XProtect Incident Managerに関連する一部のユーザーアクティビティに関するログエントリが保存されています。すべてのシーケンスは、インシデントプロジェクトに追加されているかどうかにかかわらず、常にレコーディングサーバーのストレージにあるカメラのメディアデータベースに保存されます。

XProtect Incident Managerのシステムログファイル

XProtect Incident Manager用のシステムログファイルは、Management Serverシステムコンポーネントがインストールされているコンピュータにあります。システムログの場所は、C:\ProgramData\Milestone\XProtect Incident Manager\Logsです。システムエラーのトラブルシューティングが必要になった場合はこのログファイルを参照してください。

XProtect Incident Managerのシステムログファイルが10MB以上になると、VMSはそのファイルをアーカイブのサブフォルダーにコピーしてアーカイブします。VMSは新しいログエントリを新しいシステムログファイルに書き込みます。適切な権限を有していれば、VMSがシステムログファイルをアーカイブするタイミングを変更することができます。C:\Program Files\Milestone\XProtect Management Server\IIS\IncidentManager\Web.configファイル内のアーカイブの**最大化**の値を変更します。

Management ClientおよびXProtect Smart Clientへのユーザーアクティビティのログ記録

XProtect Incident Managerは、SQLデータベースにユーザーアクティビティの詳細な記録を保存します。

Management Clientの管理者によってインシデントプロパティが作成/有効化/編集されると、そのアクティビティはログサーバーのSQLデータベース**SurveillanceLogServerV2**に記録されます。

XProtect Smart Clientのオペレータによってインシデントプロジェクトが作成/編集されると、そのアクティビティはSurveillance_IMという名称のXProtect Incident Manager専用のSQLデータベース、ログサーバーのSQLデータベースSurveillanceLogServerV2、または両方のSQLデータベースに記録されます。

アクティビティがログに記録される場所は、特定のアクティビティによって異なります。

実行者と実行場所	アクティビティ	アクティビティのログイン先	
		Surveillance_IM	SurveillanceLogServerV2
Management	すべてのインシデントプロ	いいえ	はい

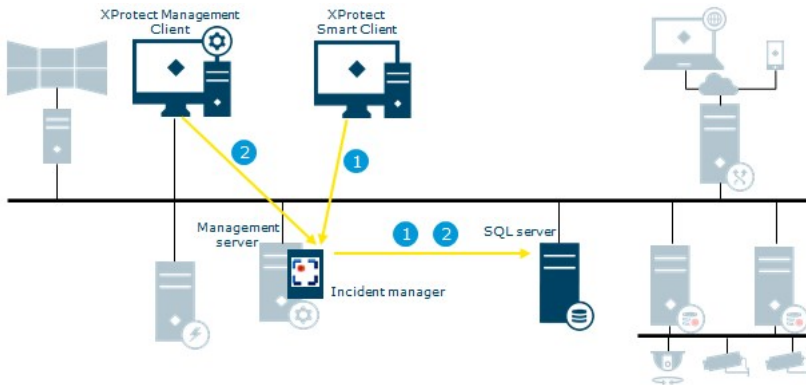
実行者と実行場所	アクティビティ	アクティビティのログイン先	
		Surveillance_IM	SurveillanceLogServerV2
Clientの管理者	パーティとXProtect Incident Manager関連の設定の定義/編集/削除。		
XProtect Smart Clientのオペレータ	インシデントプロジェクトの作成/削除。インシデントレポートの生成/印刷。	はい	はい
	インシデントプロジェクトのオープン/エクスポート。	はい	いいえ
	インシデントプロジェクトの編集。例えば、インシデントタイプ、ステータス、カテゴリ、データの適用あるいは変更、電話に関するコメントまたは情報の追加などです。	はい	いいえ
	シーケンスの作成と削除。インシデントプロジェクトに対するシーケンスの追加/削除。	はい	いいえ

Surveillance_IMデータベースは、Management Serverサービス用のSQLデータベースと同じSQL Serverの設備上にあります。Management Server用のSQLデータベースを移動した場合は、Surveillance_IMデータベースも同じ場所に移動する必要があります。Surveillance_IMデータベースの移動およびバックアップ方法は、他のSQLデータベースと同一の手順です。

XProtect VMSシステム管理者マニュアル (<https://doc.milestonesys.com/2022r3/ja-JP/portal/htm/chapter-page-mc-administrator-manual.htm>)のマネジメントサーバーの移動とSQLデータベースの管理に関するセクションも参照してください。

システム アーキテクチャ

XProtect Incident Managerは、Management Serverサービスと同じコンピュータにインストールされます。



1. XProtect Smart Clientのオペレータによって、インシデントプロジェクトが開始、保存、編集、削除されます。インシデントプロジェクトとそのデータに関する情報は、アドオン独自のSQLデータベース Surveillance_IMに保存されます。インシデントプロジェクト関連のこれらアクティビティは、アクティビティがアドオン専用のSQLデータベースSurveillance_IMまたはLog ServerサービスのSQLデータベース SurveillanceLogServerV2またはその両方にログ記録されるかによって異なります。
2. Management Clientシステム管理者によって、インシデントプロパティが作成、編集、削除されます。インシデントプロパティ定義は、アドオン独自のSQLデータベースSurveillance_IMに保存されます。ユーザーアクティビティは、Log ServerサービスのSQLデータベースSurveillanceLogServerV2にログ記録されます。

クラスタリング

XProtect Incident Managerの設備をクラスタリングすることができます。

XProtectVMSのシステム管理者マニュアルに記載されているクラスタリングに関する情報も合わせて参照してください。

XProtect Incident ManagerおよびMilestone Federated Architecture

XProtect Incident Managerは、親/子サイトのフェデレーテッドサイト階層の一部である設備で使用できます。

XProtect Incident Managerの基本ライセンスがあれば、すべてのサイトでXProtect Incident Managerを使用することができます。自分のサイトとその子サイトのシーケンスをインシデントプロジェクトに追加することができます。

ただし、インシデントプロジェクトは作成されたサイトでのみ利用可能です。他のサイト（親サイト、子サイトを問わず）で作業しているXProtect Smart Clientオペレータは、そのサイトのシーケンスがインシデントプロジェクトに追加されても、インシデントプロジェクトにアクセスすることはできません。

XProtect VMSのシステム管理者マニュアルで、Milestone Federated Architecture™に関する入手可能な情報も参照してください。

使い始めるの概要

XProtect Incident Managerの機能を使い始めるには、以下のことを行っておく必要があります。

1. XProtect VMSをインストールし、アクティベーションを行います。

ライセンスをアクティブ化する方法に関するセクションも XProtect VMSシステム管理者マニュアルで参照してください(<https://doc.milestonesys.com/2022r3/ja-JP/portal/htm/chapter-page-mc-administrator-manual.htm>)。

2. モーション検知を有効にする。

3. XProtect Management ClientでXProtect Incident Managerの動作を設定する。

また、[ページ17のManagement Clientのインシデントプロパティ \(説明\)](#) も参照してください。

4. これで、XProtect Smart Clientでインシデントプロジェクトを保存して、インシデントの資料化と管理、社内または社外の関係部署とのそれらインシデントの情報の共有を行うことができます。

また、[ページ32のインシデントプロジェクトとインシデントプロパティ \(説明\)](#) も参照してください。

インストール

XProtect Incident Managerのインストール（説明済み）

XProtect Corporate 2022 R2もしくはそれ以降をインストールすると、XProtect Incident Managerもインストールされます。

2022 R3以降のXProtect Expert、XProtect Professional+、およびXProtect Express+とともにXProtect Incident Managerを購入した場合、XProtect Incident Managerもインストールされます。

VMSのインストール方法については、お使いのVMS製品のシステム管理者向けマニュアルを参照してください。

XProtect Incident Managerは、Management Serverサービスと同じコンピュータにインストールされます。[ページ13のシステム アーキテクチャ](#)も参照してください。

XProtect Incident ManagerおよびLog Serverサービス

Log Serverサービスをインストールしない場合、VMSはXProtect Incident Managerに関連するユーザーアクティビティの一部を記録することができません。

初期インストール時にLog Serverサービスをインストールせず、後からインストールした場合は、Incident Managerサービスの再起動が必要です。

Incident Managerのサービスを再起動するには、インターネット情報サービス（IIS）マネージャーを開いてください。**VideoOs IM AppPool**を右クリックして**停止**を選択し、もう一度**VideoOs IM AppPool**を右クリックして**開始**を選択します。

再起動後、VMSはログサーバーのSQLデータベースSurveillanceLogServerV2にログエントリーの書き込みを開始します。また、[ページ12のログへの記録とSQLデータベース](#)も参照してください。

設定

Management Clientのインシデントプロパティ（説明）

インシデントプロパティは、XProtect Smart Clientでインシデントの資料化と管理を行うために定義できるすべてのデータと設定です。XProtect Smart Clientのオペレータは、定義されたインシデントプロパティを使用することで、インシデントプロジェクトのインシデントのカテゴリー分類と管理、ステータスの追跡ができます。

さまざまなインシデントプロパティの使用および定義方法の具体的な手順シナリオについては、[ページ17のシナリオ](#)を参照してください。

次のインシデントプロパティを使用できます。

プロパティ	使用
タイプ	XProtect Smart Clientのオペレータは、1つのインシデントプロジェクトに1つのインシデントタイプを割り当てることができます。XProtect Smart Clientのオペレータは、インシデントプロジェクトの作成または更新をする時に、インシデントタイプを割り当てることができます。 ページ24のインシデントタイプを定義/編集する を参照してください。
ステータス	すべてのインシデントプロジェクトはそれぞれ1つのインシデントのステータスとなる場合があります。XProtect Smart Clientのオペレータは、インシデントプロジェクトの作成または更新をする時に、インシデントステータスを割り当てることができます。 ページ25のインシデントステータスを定義/編集する を参照してください。
カテゴリ	インシデントカテゴリとインシデントデータは任意です。これらのインシデント関連のプロパティを有効にして定義すると、XProtect Smart Clientオペレータは、既存のインシデントプロジェクトを更新する時に、定義されたプロパティ値を選択することで追加情報を追加できます。 ページ26のインシデントカテゴリを定義/編集する および ページ27のインシデントデータを定義/編集する を参照してください。

インシデントプロパティの使用方法和定義方法のシナリオ

シナリオ

システム管理者は、XProtect Incident Managerで各種インシデントプロパティを使用および定義することで、インシデントの概要を把握したり、XProtect Smart Clientのオペレータによるインシデントの資料化および管理方法の標準化をサポートしたりできます。

次のシナリオでは、労働災害を取り巻く状況を文書化して管理するケースを想定してください。このようなシナリオでは、次のインシデントプロパティの手順に従ってください。

インシデントタイプ

最初にインシデントタイプを使用して、労働災害に関する主な情報を資料化します。このシナリオでは、以下もご確認ください：

- 人身事故の被害者

方法は、[ページ18のシナリオ：インシデントタイプを使用して人身事故の被害者を特定する](#)を参照してください。

インシデントカテゴリー

続いて、インシデントカテゴリーを導入することで、労働災害を明確なカテゴリーに分類し、可能であれば、今後同様の事故を防止する方法を見つけます。このシナリオでは、以下もご確認ください：

- 人身事故の発生原因
- 人身事故の発生場所

方法は、[ページ20のシナリオ：インシデントカテゴリーを使用して人身事故の発生原因と発生場所を資料化する](#)を参照してください。

インシデントデータ

最後にインシデントデータを導入することで、労働災害の詳細を資料化します。このシナリオでは、以下もご確認ください：

- 人身事故の被害者数
- 非常時連絡先への通知の有無
- 商品の被害の有無とその価額

方法は、[ページ23のシナリオ：インシデントデータを使用して人身事故件数と追加の状況情報を文書化する](#)を参照してください。

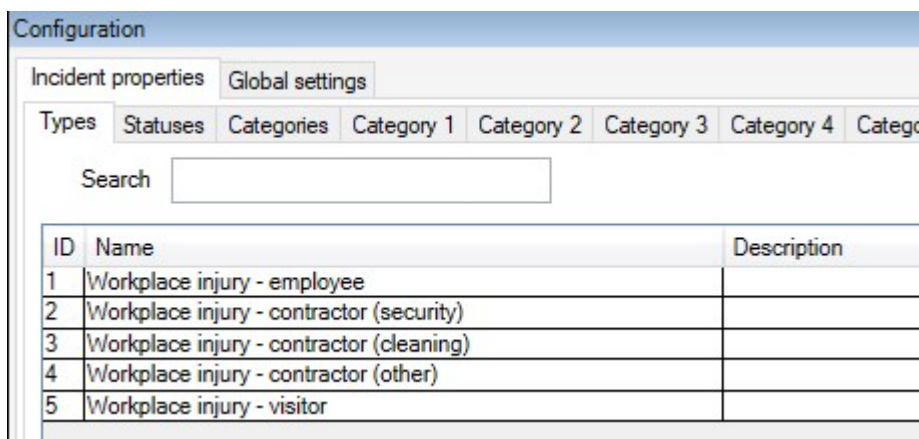
シナリオ：インシデントタイプを使用して人身事故の被害者を特定する

労働災害の追跡を開始するには、最初にその被害者のみに注目してください。インシデントタイプを使用して、この情報を資料化します。

XProtect Management Clientの[サイトのナビゲート](#)区画からインシデントを選択し、インシデントプロパティを選択します。**Types (タイプ)** タブを選択します。

以下のインシデントタイプを作成します。

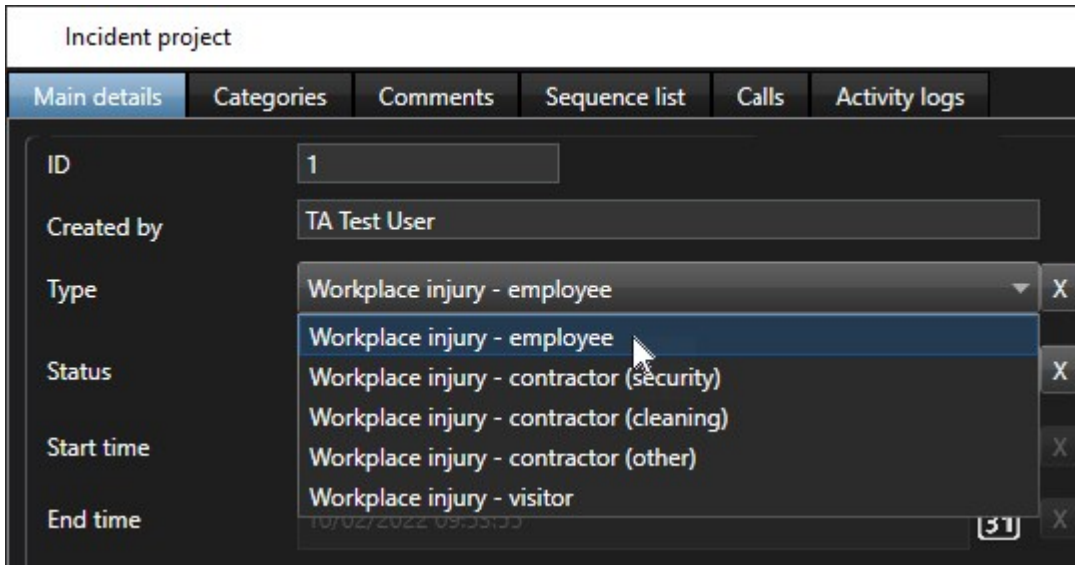
インシデントタイプの名前
職場の人身事故 - 従業者
職場の人身事故 - 請負業者（警備）
職場の人身事故 - 請負業者（清掃）
職場の人身事故 - 請負業者（その他）
職場の人身事故 - 訪問者



設定を保存して、XProtect Smart ClientのオペレータにXProtect Smart Clientを再起動するよう要請します。

定義したインシデントタイプのXProtect Smart Client表示

オペレータが次回XProtect Smart Clientにログインして、インシデントプロジェクトを開始または更新する時には、これらのインシデントタイプをインシデントプロジェクトに割り当てることができます。



シナリオ：インシデントカテゴリーを使用して人身事故の発生原因と発生場所を資料化する

繰り返しの労働災害による度重なる資料化のためにXProtect Smart Clientのオペレータが作成するインシデントプロジェクト数が増えるにつれ、誰が労働災害の被害者となるかの洞察が深まります。そこで、労働災害をめぐる状況を資料化することにします。例えば以下のことが分かっていると想定します。

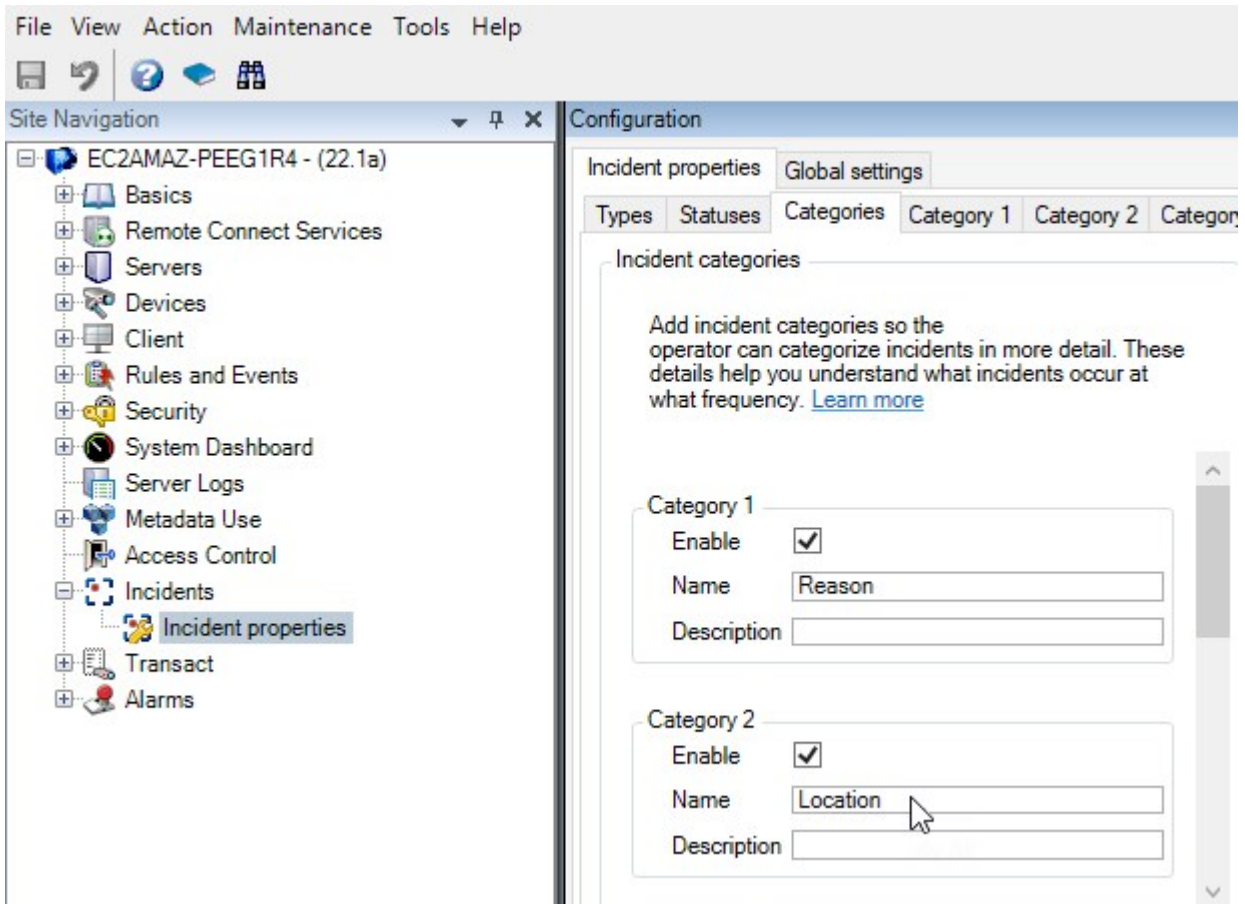
- 人身事故の大半はモノの転倒またはモノとの衝突に関係している。あらゆるインシデントプロジェクトに、その労働災害の発生原因に関する情報を記載する
- 人身事故の多くは研究所と収納室で発生しており、オフィスでの発生はわずかです。あらゆるインシデントプロジェクトに、その労働災害の発生場所に関する情報を確実に記載する

上記の詳細情報を資料化するため、インシデントカテゴリーを有効にして定義します。

XProtect Management Clientのサイトのナビゲート区画からインシデントを選択し、インシデントプロパティを選択します。**Categories (カテゴリー)** タブを選択します。

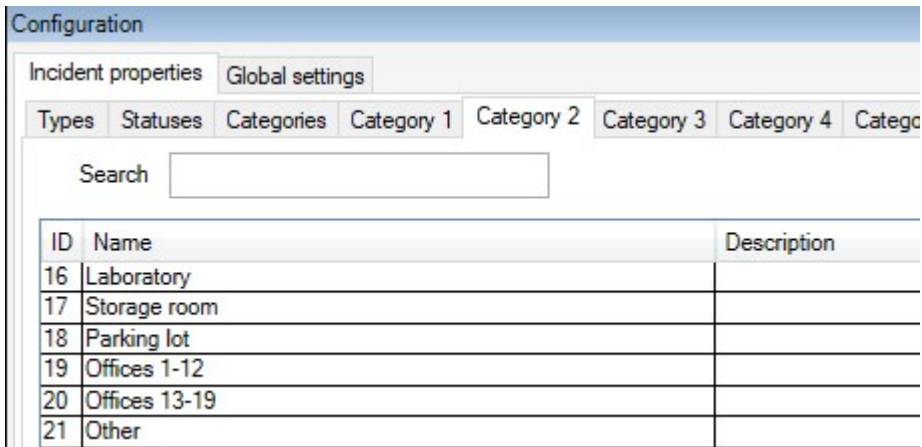
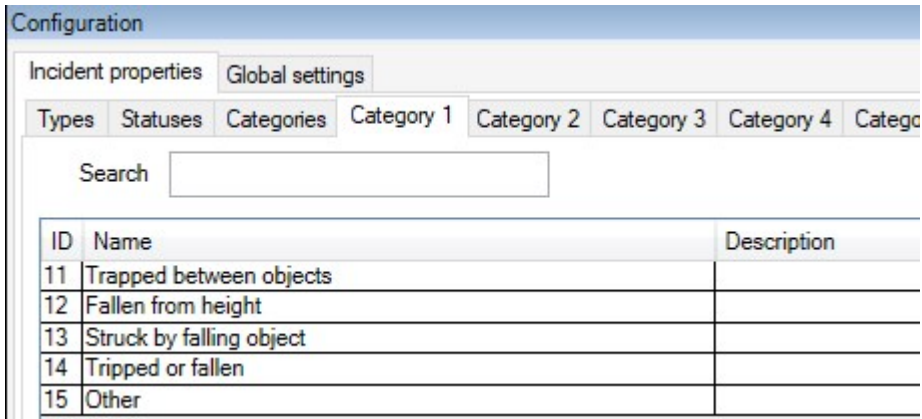
以下のインシデントカテゴリーを作成します。

カテゴリ	名前	説明
1	理由	事故の内容
2	場所	事故の発生場所



次に**カテゴリー1**タブと**カテゴリー2**タブで、労働災害でよくある発生原因と発生場所の値を作成します。
インシデントカテゴリーで以下の値を作成します。

カテゴリー	カテゴリーの名前
カテゴリー1 (原因)	モノの間に挟まれる 高所からの落下 落下物にぶつかる つまずくまたは転倒する その他
カテゴリー2 (場所)	研究所 収納室 駐車場 オフィス1～12 オフィス13～19 その他

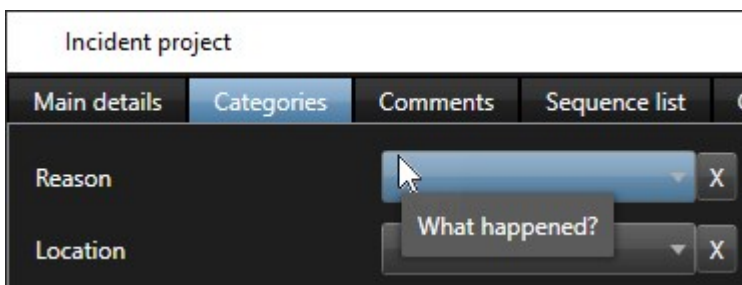


設定を保存して、XProtect Smart ClientのオペレータにXProtect Smart Clientを再起動するよう要請します。

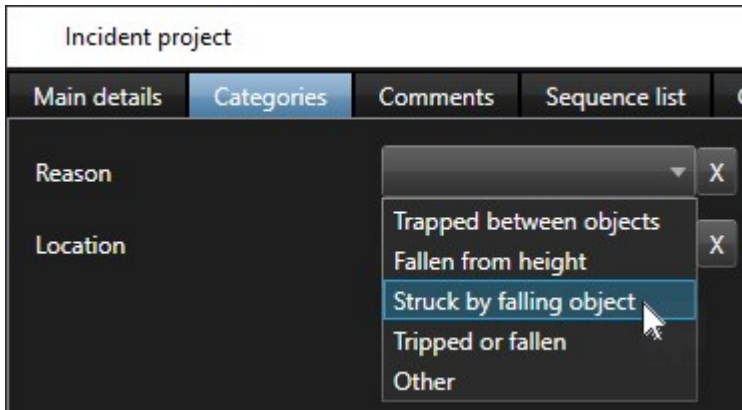
オペレータが次回XProtect Smart Clientにログインして、インシデントプロジェクトを更新する時には、これらのカテゴリーおよびカテゴリー値をインシデントプロジェクトに割り当てることができます。

定義したインシデントカテゴリーとカテゴリー値のXProtect Smart Client表示

有効にして定義したインシデントカテゴリーの名称と説明が、ラベルとツールチップの形式で表示されます。インシデントカテゴリーを見るには、**インシデント**タブを選択して、インシデントプロジェクトをダブルクリックして開き、**カテゴリー**タブを選択します。



定義したインシデントカテゴリー値は、その値が属するカテゴリーの横にリスト形式で表示されます。インシデントカテゴリー値を見るには、**インシデント**タブを選択して、インシデントプロジェクトをダブルクリックして開き、**カテゴリー**タブを選択します。



シナリオ：インシデントデータを使用して人身事故件数と追加の状況情報を文書化する

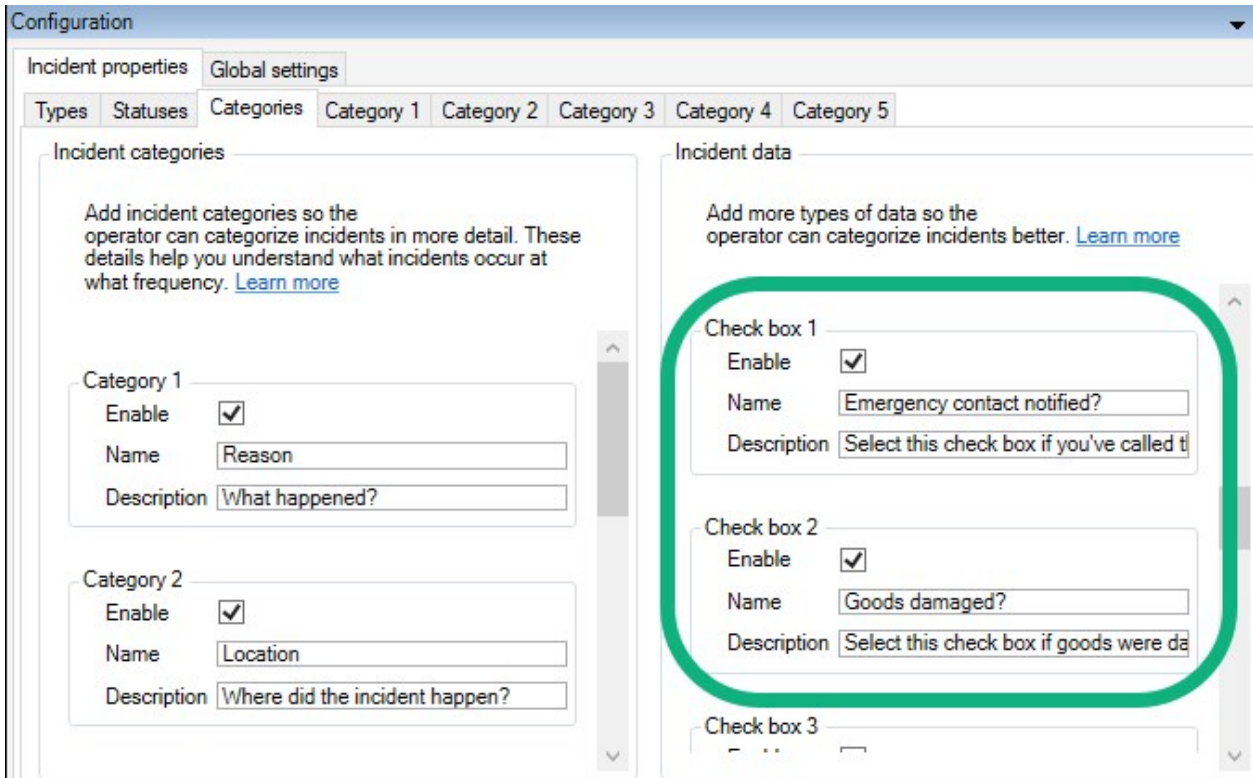
インシデントの文書化がより包括的になるにつれ、構造化された方法で各災害の追加状況を文書化する必要があることを認識します。例えば、インシデントプロジェクトごとに以下を資料化すると想定します。

- 人身事故の被害者数
- 非常時連絡先への通知の有無
- インシデントでの商品の被害の有無
- 被害があった場合のその価額

XProtect Management Clientのサイトのナビゲート区画からインシデントを選択し、インシデントプロパティを選択します。**Categories (カテゴリー)** タブを選択します。

以下のインシデントデータを有効にして定義します。

有効	定義	
インシデントデータ	名前	説明
整数1	人身事故の被害者数	
チェックボックス1	非常時連絡先への通知の有無	従業員の非常時連絡先に電話した場合はこのチェックボックスを選択。
チェックボックス2	商品の被害の有無	商品に被害があった場合はこのチェックボックスを選択。
10進数1	おおよその被害価額 (米ドル)	

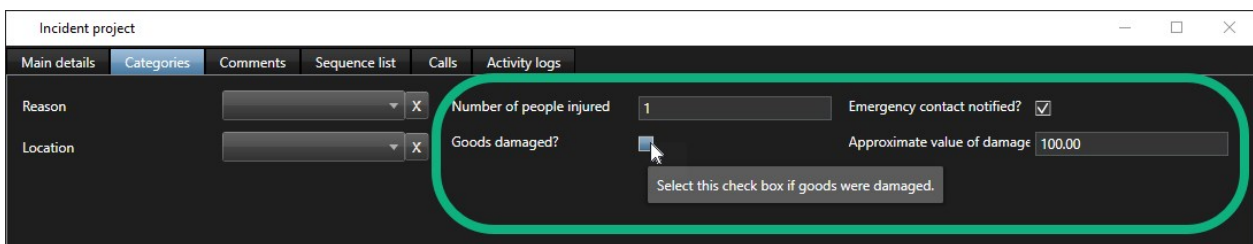


設定を保存して、XProtect Smart ClientのオペレータにXProtect Smart Clientを再起動するよう要請します。

オペレータが次回XProtect Smart Clientにログインして、インシデントプロジェクトを更新すると、これらのインシデントデータ要素を使用して職場での人身事故についてより多くの情報を資料化できます。

有効にして定義したインシデントデータのXProtect Smart Client表示

有効にして定義したインシデントデータの名前と説明が、ラベルとツールチップの形式で表示されます。それらを見るには、**インシデント**タブを選択して、インシデントプロジェクトをダブルクリックして開き、**カテゴリ**タブを選択します。



インシデントタイプを定義/編集する

インシデントタイプは、インシデント間をカテゴリ分類して区別するための第一の手段です。XProtect Smart Clientのオペレータは、インシデントプロジェクトの作成または更新でプロジェクトごとに1つのインシデントタイプを割り当てることができます。

Management Clientでインシデントタイプを定義/編集する

1. **サイトのナビゲート > インシデントプロパティ**を選択します。
2. **Types (タイプ)** タブで、以下を選択できます。
 - **追加** - 新しいインシデントタイプを定義する
 - **編集** - 既存のインシデントタイプを更新する
 - **削除** - 既存のインシデントタイプを削除する



XProtect Smart Clientでインシデントプロジェクトに割り当て済みのインシデントタイプを編集/削除することはできません。インシデントタイプを編集/削除する場合は、事前にF5を押して表示を更新することで、インシデントプロジェクトに対する最新の変更を反映させておいてください。

3. 設定を保存して、XProtect Smart ClientのオペレータにXProtect Smart Clientを再起動するよう要請します。オペレータがXProtect Smart Clientに次回ログインすると、インシデントプロパティに対する変更が反映されます。インシデントタイプの使用シナリオについては、[ページ18のシナリオ：インシデントタイプを使用して人身事故の被害者を特定する](#)を参照してください。

インシデントステータスを定義/編集する

インシデントステータスでは、XProtect Smart Clientのオペレータがインシデント調査の進捗を追跡するのに役立ちます。XProtect Smart Clientのオペレータは、既存のインシデントプロジェクトを更新するときに、プロジェクトごとに1つのステータスを割り当てることができます。

以下はインシデントステータスの例です。

- **新規**
- **In progress (処理中)**
- **On hold (保留中)**
- **Closed (終了)**

Management Clientでインシデントステータスを定義/編集する

1. **サイトのナビゲート > インシデント > インシデントプロパティ**を選択します。

2. **Status (ステータス)** タブで、以下を選択できます。

- **追加** - 新しいインシデントステータスを定義する
- **編集** - 既存のインシデントステータスを更新する
- **削除** - 既存のインシデントステータスを削除する



XProtect Smart Clientでインシデントプロジェクトに割り当て済みのインシデントステータスを編集または削除することはできません。インシデントステータスを編集/削除する場合は、事前にF5を押して更新し、インシデントプロジェクトに対する最新の変更を反映させておいてください。

3. 設定を保存して、XProtect Smart ClientのオペレータにXProtect Smart Clientを再起動するよう要請します。

オペレータがXProtect Smart Clientに次回ログインすると、インシデントプロパティに対する変更が反映されます。

インシデントカテゴリーを定義/編集する

インシデントカテゴリーは、XProtect Smart Clientのオペレータがより詳細なデータでインシデントプロジェクトをカテゴリー別に分類するのに役立ちます。インシデントカテゴリーは任意です。インシデントプロパティを有効にすると、XProtect Smart Clientのオペレータは、割当済みのインシデントタイプやインシデントのステータス、その他インシデントプロパティに関係なく、それらをすべてのインシデントプロジェクトに割り当てることができます。

5つのインシデントカテゴリーを有効にして使用することができます。

Management Clientでインシデントカテゴリーを有効にして定義/編集する

1. **サイトのナビゲート > インシデント > インシデントプロパティ**を選択します。
2. **カテゴリー**タブを選択し、**インシデントカテゴリー**領域でカテゴリーを有効にします。
3. カテゴリーに名前と説明を付けます（説明は任意）。
4. 有効にしたカテゴリーに対応する**カテゴリー1~5**のタブのいずれかを選択します。例えば**カテゴリー**タブで**カテゴリー2**を有効にした場合は、**カテゴリー2**のタブを選択します。

5. 右側の**カテゴリ1~5**のタブで、以下を選択できます。

- **Add (追加)** - 新しいカテゴリ値を定義する
- **Edit (編集)** - 既存のカテゴリ値を更新する
- **Delete (削除)** - 既存のカテゴリ値を削除する



XProtect Smart Clientのオペレータによって既にインシデントプロジェクトに割り当て済みのカテゴリ値を編集/削除することはできません。カテゴリ値を編集/削除する場合は、事前にF5を押すか、**表示を更新**を選択することで、インシデントプロジェクトに対する最新の変更を反映させておいてください。

6. 設定を保存して、XProtect Smart ClientのオペレータにXProtect Smart Clientを再起動するよう要請します。

オペレータがXProtect Smart Clientに次回ログインすると、インシデントプロパティに対する変更が反映されます。

インシデントカテゴリの使用シナリオについては、[ページ20のシナリオ：インシデントカテゴリを使用して人身事故の発生原因と発生場所を資料化する](#)を参照してください。

インシデントデータを定義/編集する

インシデントデータは、XProtect Smart Clientのオペレータがより詳細なデータでインシデントプロジェクトをカテゴリ別に分類するのに役立ちます。インシデントデータは任意です。インシデントプロパティを有効にすると、XProtect Smart Clientのオペレータは、割当済みのインシデントタイプやインシデントのステータス、その他インシデントプロパティに関係なく、それらをすべてのインシデントプロジェクトに割り当てることができます。

インシデントデータはいくつかの型に分かれます。

- 整数、10進数、フリーテキストを入力するためのフィールド
- チェックボックスおよび日付と時刻の選択

インシデントデータ型ごとに3つのデータを有効にして定義することができます。

Management Clientでインシデントデータを有効にして定義/編集する

1. **サイトのナビゲート > インシデント > インシデントプロパティ**を選択します。
2. **カテゴリ**タブを選択し、**インシデントデータ**で、目的に最適なインシデントデータの型を有効にします。
3. インシデントデータの型に名称と任意で説明を加えます。
4. 必要に応じて複数のインシデントデータ型を有効にして定義できます。
5. XProtect Smart ClientのオペレータにXProtect Smart Clientを再起動するよう要請します。

オペレータがXProtect Smart Clientに次回ログインすると、インシデントプロパティに対する変更が反映されます。

インシデントデータの使用シナリオについては、[ページ23のシナリオ：インシデントデータを使用して人身事故件数と追加の状況情報を文書化する](#)を参照してください。

レポートの設定を定義/編集する

XProtect Smart Clientのオペレータは、インシデントプロジェクトにすでに追加したすべてのテキスト情報を含むレポートを作成することができます。

副題の**インシデントレポート**とは別に、特定のメインタイトルを加えたい場合、Management Clientでそのタイトルを定義することができます。例えばメインタイトルに自分が属している組織の名称を付けることができます。

Management Clientでレポートの設定を定義/編集する

1. **サイトのナビゲート > インシデント > インシデントプロパティ**を選択します。
2. **Global settings (グローバル設定)** タブを選択します。
3. **レポートのタイトル**フィールドで、レポートのメインタイトルを入力します。
4. **保存**を選択します。

XProtect Incident Managerの機能およびユーザーインターフェイス要素に対する権限を指定する

インシデント関連の機能およびユーザーインターフェイス要素に対する以下の権限を指定することができます。

- オペレータの役割：XProtect Smart Clientでの表示および管理を許可
- システム管理者の役割：XProtect Management Clientでの表示および定義を許可

以下の権限を付与することもできます。

- 権限なし
- 表示権限
- 管理権限

ユーザーがユーザーインターフェイス要素を表示してアクセスできるようにするには、ユーザーに表示権限を付与する必要があります。

機能の管理権限をユーザーに付与するということは、その機能に関する設定およびプロパティの表示・作成・編集・削除を許可するということです。表示権限は、その機能に関する設定およびプロパティの表示のみを許可するだけで、その作成、編集、削除は許可しません。

管理者の役割を割り当てられたユーザーには、Management ClientおよびXProtect Smart Client両方のすべてのインシデント関連機能とユーザーインターフェイスに対する権限のすべてが付与されます。

Management Clientで権限を指定する

1. **サイトのナビゲート > セキュリティ > 役割**を選択します。
2. **インシデント**タブを選択し、**役割の設定**ウィンドウで**インシデント**ノードを展開します。
3. XProtectSmartClientオペレータの役割にインシデントプロジェクトの管理または表示権限を付与する場合：
 1. オペレータの役割を選択するか、新しい役割を作成します。
 2. オペレータの役割を持つユーザーがManagement Clientで定義したインシデントプロパティを利用できるように、**インシデントプロパティ**を選択して**ビュー**の権限を付与します。
 3. インシデントプロジェクトに関係する一般的な機能およびユーザーインターフェイス要素に対するオペレータの役割権限を付与する場合は、**インシデントプロジェクト**ノードを選択して、インシデントプロジェクトの管理権限または表示専用権限のどちらをその役割に持たせるか選択します。
 4. 追加の機能とユーザーインターフェイス要素に対する権限を付与する場合は、**インシデントプロジェクト**を展開して、機能またはユーザーインターフェイス要素を選択し、権限を付与します。
4. Management Clientシステム管理者の役割に権限を付与する場合：
 1. 管理者の役割を選択するか、新しい役割を作成します。
 2. **インシデントプロパティ**を選択し、システム管理者がXProtectSmartClientのオペレータに定義できるインシデントプロパティの管理または表示専用のどちらの権限をその役割に持たせるか選択します。



XProtect Smart Clientのオペレータに、インシデントプロジェクトに追加されたシーケンスをエクスポートする権限を付与する場合は、Smart Clientプロファイルで定義します。

XProtect VMSシステム管理者マニュアル (<https://doc.milestonesys.com/2022r3/ja-JP/portal/htm/chapter-page-mc-administrator-manual.htm>)のSmart Clientプロファイルに関するセクションを参照してください。

XProtect Incident Manager関係の権限の設定についての詳細は、[ページ30のインシデントタブ \(セキュリティ > 役割ノード\)](#) を参照してください。

ユーザーインターフェースの詳細

インシデントプロパティ (インシデントノード)

次の情報は、XProtect Incident Managerに関連する設定の説明です。

インシデントプロパティタブ

インシデントプロパティタブには、次のサブタブが含まれます。これらには、XProtect Smart Clientのオペレータに対して定義できるすべてのインシデントプロパティの設定も含まれます。

- タイプ
- ステータス
- カテゴリ
- カテゴリ1～5

すべてのインシデントプロパティに以下の設定があります。

名前	説明
名前	インシデントプロパティの名称が一意である必要はありませんが、一意で分かりやすい名称にした方が、多くのメリットがあります。
説明	定義するインシデントプロパティの追加説明。例えば <i>Location</i> (ロケーション) という名称のカテゴリを作成した場合は、 <i>Where did the incident happen?</i> (インシデントの発生場所) などの説明を付けることができます。

グローバル設定タブ

名前	説明
レポートのタイトル	XProtect Smart Clientのオペレータは、インシデントプロジェクトにすでに追加したすべてのテキスト情報を含むレポートを作成することができます。この設定では、レポートのメインタイトルを定義することができます。

インシデントタブ (セキュリティ > 役割ノード)

XProtect Incident Managerをお持ちの場合は、役割に対して以下の権限を指定することができます。

Management Client管理者の役割にインシデントプロパティの管理または表示権限を付与するには、**Incident properties (インシデントプロパティ)** ノードを選択します。

定義したインシデントプロパティを表示するXProtect Smart Client権限をオペレータに付与するには、**インシデントプロパティ**を選択してビューに権限を付与します。インシデントプロジェクトを管理または表示するための一般的な権限を付与するには、**インシデントプロジェクトノード**を選択します。**インシデントプロジェクトノード**を選択し、サブノードを選択することで、追加の機能または能力に対する権限を付与します。

名前	説明
管理	機能に関する設定およびプロパティを管理（表示・作成・編集・削除）する権限、あるいは Management Client または XProtect Smart Client のいずれかで選択しているノードによって表されるユーザーインターフェイス要素を表示する権限を役割に付与します。
ビュー	機能に関する設定およびプロパティを表示（表示のみで作成・編集・削除は不可）する権限、定義されたインシデントプロパティ、あるいは Management Client または XProtect Smart Client のいずれかで選択しているノードによって表されるユーザーインターフェイス要素を表示する権限を役割に付与します。

操作

XProtect Incident Manager（使用）

XProtect Incident Managerアドオンがインストールおよび設定され、VMSのシステム管理者によってユーザーに必要な権限が付与されると、そのユーザーはXProtect Smart Clientでインシデントを資料化および管理し、インシデントプロジェクトにすべての情報を保存できます。

インシデントタブでは、インシデントプロジェクトを表示・更新したり、インシデントを管理したりできます。通常、ユーザーは、インシデントプロジェクトにシーケンスおよびさまざまなテキスト情報を追加することで、インシデントの発生日時に起きたこと資料化して証明します。

インシデント管理では、以下を行うことができます。

- インシデントプロジェクトのリストをフィルタリングして、関連するインシデントプロジェクトを素早く検索する
- さまざまなインシデントプロジェクトのステータスとタイプ、開始および終了時刻、説明を表示する
- インシデント管理の最新のアクションおよびその他の展開でインシデントプロジェクトを更新する
- レポートを作成およびインシデントプロジェクトのシーケンスをエクスポートすることで社内または社外とエビデンスを共有する

インシデントプロジェクトとインシデントプロパティ（説明）

XProtect VMSのシステム管理者によってXProtect Incident Managerが設定され、必要な権限が付与されると、インシデントプロジェクトにインシデントに関するすべての情報を保存することができます。

保存されたすべてのインシデントプロジェクトは、**インシデント**タブで確認できます。インシデントプロジェクトは何件でも保存可能です。リストには1ページあたり100件のインシデントプロジェクトが表示され、最も最近作成されたものが一番上に表示されます。**インシデント**タブから、インシデントプロジェクトを管理・更新したり、レポートおよびエクスポートを使用して他の人とインシデントプロジェクトを共有したりできます。

インシデントプロジェクトに追加できる情報と、定義できるプロパティは以下の通りです。

- XProtectVMSからのビデオおよび場合によっては音声入りのシーケンス
- インシデントプロパティ（タイプ、ステータス、カテゴリ、データ要素など）
- 自由形式のテキスト情報（コメント、説明、コール情報など）

XProtect VMS管理者は、インシデントプロジェクトに割り当てられるインシデントプロパティを定義します。インシデントプロジェクトには、いつでも自由形式のテキスト情報およびXProtect VMSからのシーケンスを追加することができます。

新しいインシデントプロジェクトを作成すると、インシデントタイプを指定して、説明を付けることができます。インシデントプロジェクトを作成した後で、追加の情報を後で追加するのはよくあることです。そのためには、**インシ**

デントタブからインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。そして、各種タブに用意されている各種情報およびプロパティを追加・編集します。必要に応じてレポートおよびエクスポートを使用してインシデントプロジェクトの情報を他の人と共有することもできます。

XProtect Smart Clientのインシデントタブの設定

インシデントタブからインシデントを開くと、そのインシデントプロジェクトに追加の情報を追加することができます。

Main Details（主な情報）タブ

名前	説明
ID	システムによって付けられたインシデントプロジェクトの一意的ID。 このプロパティは変更できません。
作成者	インシデントプロジェクトを作成した人の名前。 このプロパティは変更できません。
タイプ	インシデントのタイプ。 設定可能な値は、システム管理者によって定義されます。
ステータス	インシデントの管理ステータス。 設定可能な値は、システム管理者によって定義されます。
開始および終了時刻	インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスの開始および終了時刻。 このプロパティは変更できません。
説明	インシデントの説明。

Categories（カテゴリー）タブ

ユーザーが使用できるカテゴリープロパティは、XProtect VMSの設置先のシステム管理者によって定義されます。

カテゴリーのプロパティには以下を設定できます。

- 値を選択できるリスト
- チェックボックス
- 日付と時刻フィールド

- 数字またはフリーテキストを入力するためのフィールド。

Comments (コメント) タブ

このタブでは、インシデントに関するコメントを追加/編集することができます。

Sequence list (シーケンスリスト) タブ

このタブでは、選択されているインシデントプロジェクトに追加されているすべてのシーケンスを表示できます。また、インシデントプロジェクトからシーケンスを削除することもできます。[ページ41のインシデントプロジェクトからシーケンスを削除する](#)を参照してください。

追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ39のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。

Calls (電話) タブ

このタブでは、インシデントに関連して自分でかけた電話または自分が受けた電話に関する情報を追加したり、警察または他の人が現場に到着および現場を離れた日時を資料化したりすることができます。

Activity logs (アクティビティログ) タブ

アクティビティログでは、システムは、インシデントプロジェクトに関連するユーザーアクションをログに記録します。[ページ42のインシデントプロジェクトのユーザーアクティビティログを表示する](#)を参照してください。

インシデントプロジェクトの作成

インシデントプロジェクトの作成 (説明)

インシデントプロジェクトを作成する方法はいくつかあります。どの方法は最適かは、以下の条件によって異なります。

- インシデントを発見した場合。
- 状況が継続していて、その場で解決する必要があるため、インシデントプロジェクトを作成する時間がほとんどまたはまったくない場合。
- インシデントプロジェクトに追加するシーケンスがない場合。
- 個人的な判断による場合。

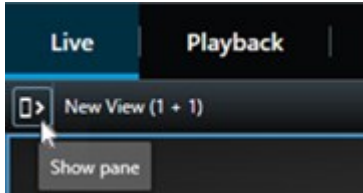


XProtectVMSに定義されている保存期間よりも長い期間、インシデントプロジェクトにシーケンスを保存しておく必要がある場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてください。[ページ43のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)を参照してください。

インシデントプロジェクトをリアルタイムで作成する

継続しているインシデントがあることに気付いたが、個人的に現場でその状況を解決する必要がない場合は、以下の方法に従ってシーケンスを追加してインシデントを資料化することができます。

1. **ライブタブから区画を表示**を選択します。



2. **MIPプラグイン区画とインシデントから、インシデントプロジェクトを開始**を選択します。XProtect Incident Managerによって現在のビューでシーケンスの収集が開始されます。
3. (任意) ビューを切り替えて、インシデントに関係する人物やモノを追従します。
4. (任意) サポートを求めて現場で状況を解決します。
5. インシデントが終了し、それ以上のエビデンスがなくなったら、**インシデントプロジェクトを保存**を選択します。
6. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。**保存**を選択します。
7. **インシデントタブ**を選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



8. **主な情報タブ**で、インシデントの管理ステータスを選択します。
9. **カテゴリタブ**で、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
10. **コメントタブ**でインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。
コメントを入力します。インシデントプロジェクトは、VMSからのシーケンスがなくても問題ありません。
11. **シーケンスリストタブ**で、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できます。無関係のシーケンスが含まれていないか確認し、無関係のシーケンスは削除します。
12. **電話タブ**で、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。
13. **保存**を選択します。
14. インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ39のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。



XProtectVMSに定義されている保存期間よりも長い期間、インシデントプロジェクトにシーケンスを保存しておく必要がある場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてください。[ページ43のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)を参照してください。

個人的な判断に従って、インシデントプロジェクトを作成するその他の方法を利用することもできます。[ページ36のインシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する](#)または[ページ38のビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する](#)を参照してください。

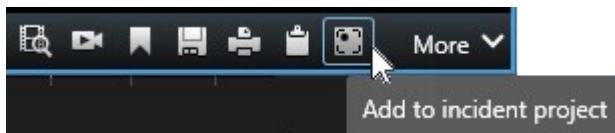
インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する

インシデント発生後にインシデントプロジェクトを作成する方法を2つあります。

- シーケンスを1つずつ追加し、ドラフトシーケンスリストから新しいインシデントプロジェクトにまとめて保存します。[ページ36の新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する](#)を参照してください。
- シーケンスを1つだけ追加して、新しいインシデントプロジェクトに直接保存します。[ページ37の新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する](#)を参照してください。

新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを追加する

1. **ライブ**または**再生**タブの、追加したいシーケンスがあるカメラ位置の右下角にある**インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択します。



2. **ドラフトシーケンスリストに追加**を選択します。
3. **開始時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
5. **終了時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。
7. 必要な回数上記の手順を繰り返して、作成するインシデントプロジェクトに関連するすべてのシーケンスを取得します。
8. **インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択し、**ドラフトシーケンスリストを表示**を選択します。
9. **新規インシデントプロジェクトにすべて追加**を選択します。
10. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。**保存**を選択します。
11. **インシデントタブ**を選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



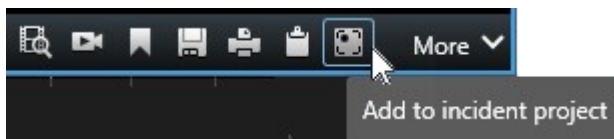
12. **主な情報**タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
13. **カテゴリ**タブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
14. **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。

コメントを入力します。インシデントプロジェクトは、VMSからのシーケンスがなくても問題ありません。

15. **シーケンスリスト**タブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できます。無関係のシーケンスが含まれていないか確認し、無関係のシーケンスは削除します。
16. **電話**タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。
17. **保存**を選択します。
18. インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ39のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。

新しいインシデントプロジェクトに再生シーケンスを1つ追加する

1. **ライブ**または**再生**タブの、追加したいシーケンスがあるカメラ位置の右下角にある**インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択します。



2. **新規インシデントプロジェクトに追加**を選択します。
3. **開始時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
5. **終了時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。
7. インシデントのタイプを選択し、インシデントプロジェクトの説明を入力します。**保存**を選択します。
8. **インシデント**タブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



9. **主な情報**タブで、インシデントの管理ステータスを選択します。
10. **カテゴリ**タブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
11. **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。
コメントを入力します。インシデントプロジェクトは、VMSからのシーケンスがなくても問題ありません。
12. **シーケンスリスト**タブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できます。無関係のシーケンスが含まれていないか確認し、無関係のシーケンスは削除します。
13. **電話**タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。

14. **保存**を選択します。
15. インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ39のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。

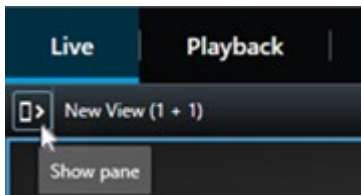


XProtectVMSに定義されている保存期間よりも長い期間、インシデントプロジェクトにシーケンスを保存しておく必要がある場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてください。[ページ43のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)を参照してください。

ビデオなしのインシデントプロジェクトを作成する

個人的な判断でVMSからのシーケンスなしにインシデントプロジェクトを開始する場合は、以下の方法を使用します。この方法は、その場でシーケンスを追加する時間がない、あるいはVMSから追加するシーケンスがないが、XProtect Smart Clientで他のインシデントプロジェクトと一緒にシーケンス無しのインシデントも文書化して管理したい場合に利用できます。シーケンスがある場合は、後でいつでも追加できます。

1. **ライブ**タブから**区画を表示**を選択します。



2. **MIP プラグイン区画**と**インシデント**から、**空のインシデントプロジェクトの作成**を選択します。
3. **インシデント**タブを選択し、作成したインシデントプロジェクトをダブルクリックして開きます。



4. **主な情報**タブで、インシデントの**管理ステータス**を選択します。
5. **カテゴリー**タブで、組織に合わせてVMSシステム管理者が定義した各種プロパティを選択または入力します。
6. **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を入力します。
コメントを入力します。インシデントプロジェクトは、VMSからのシーケンスがなくても問題ありません。
7. **シーケンスリスト**タブで、インシデントプロジェクトに追加したすべてのシーケンスを確認できます。無関係のシーケンスが含まれていないか確認し、無関係のシーケンスは削除します。
8. **電話**タブで、インシデントに関連して自分でかけた電話または受けた電話に関する情報を追加します。
9. **保存**を選択します。
10. インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加したい場合は、[ページ39のインシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する](#)を参照してください。



XProtectVMSに定義されている保存期間よりも長い期間、インシデントプロジェクトにシーケンスを保存しておく必要がある場合は、インシデントプロジェクトをエクスポートしてください。[ページ43のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)を参照してください。

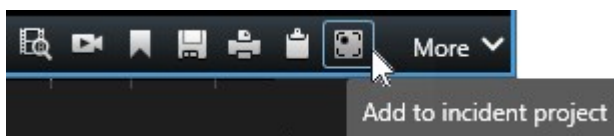
インシデントプロジェクトの編集

インシデントプロジェクトに追加のシーケンスを追加する

インシデントプロジェクトをリアルタイムに作成すると、そのインシデントが始まる前に起きていたことを示すシーケンスを追加したくなることがあります。

シーケンスを1つ追加する

1. **ライブ**または**再生**タブの、追加したいシーケンスがあるカメラ位置の右下角にある**インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択します。



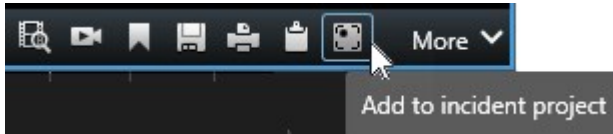
2. **既存のインシデントプロジェクトに追加**を選択します。
3. **開始時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、終了時刻の選択を続けます。
5. **終了時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。
7. そのシーケンスの追加先のインシデントプロジェクトを選択します。



特定のインシデントプロジェクトが探しにくい場合はフィルターオプションを利用できます。[ページ41のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

複数のシーケンスを追加する

1. **ライブ**または**再生**タブの、追加したいシーケンスがあるカメラ位置の右下角にある**インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択します。



2. **ドラフトシーケンスリストに追加**を選択します。
3. **開始時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
4. **インシデントプロジェクトに追加**を再び選択し、**終了時刻の選択**を続けます。
5. **終了時刻を選択**を選択し、インシデントの発生場所が見つかるまでタイムラインをドラッグします。
6. 再び**インシデントプロジェクトに追加**を選択し、**OK**を選択します。
7. 必要な回数上記の手順を繰り返して、作成するインシデントプロジェクトに関連するすべてのシーケンスを取得します。
8. **インシデントプロジェクトに追加**アイコンを選択し、**ドラフトシーケンスリストを表示**を選択します。
9. 既存のインシデントプロジェクトに追加するドラフトシーケンスリストでシーケンスを選択し、**既存のインシデントプロジェクトにすべて追加**を選択します。
10. そのシーケンスの追加先のインシデントプロジェクトを選択します。



特定のインシデントプロジェクトが探しにくい場合はフィルターオプションを利用できます。[ページ41のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

ステータス、コメント、その他プロパティを変更する

一般に、既存のインシデントプロジェクトを更新することで、インシデント管理を最適化し、インシデントに関する最新の展開および情報を資料化することができます。

インシデントプロジェクトの更新が必要となるケースの例：

- インシデント管理ステージのステータスが変わったため、インシデントプロジェクトのステータスも更新する必要がある。
- インシデントに関連して後で自分で電話をかけたか、電話を受けたため、インシデントプロジェクトにその通話情報を追加する必要がある場合。
- インシデントプロジェクトをエクスポートしたため、組織のネットワークにそのエクスポートを保存した場所に関するコメントを追加する必要がある。

インシデントプロジェクトを更新する

1. **インシデント**タブを選択し、更新したいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトが探しにくい場合はフィルターオプションを利用できます。[ページ41のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

2. インシデント管理のステータスは、**主な情報**タブで更新できます。インシデントのタイプも変更できますが、通常、このプロパティは変更しません。
3. **Categories (カテゴリー)** タブで関連するカテゴリーを更新します。
4. **コメント**タブでインシデントに関する自由形式のテキスト 情報を追加入力します。
5. **電話**タブで、インシデントに関連して後で自分でかけた電話または自分で受けた電話に関する情報を追加します。

インシデントプロジェクトからシーケンスを削除する

インシデントに関係のないシーケンスをインシデントプロジェクトに追加していた場合は、削除することができます。

1. **インシデント**タブを選択し、更新したいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトが探しにくい場合はフィルターオプションを利用できます。[ページ41のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

2. **Sequence list (シーケンスリスト)** タブで削除したいシーケンスを選択します。



選択したシーケンスに間違いがないか不確かな場合は、**View video (ビデオを表示)** を選択して確認します。[ページ42のインシデントプロジェクトでビデオを表示する](#)を参照してください。

3. **Remove (削除)** を選択し、確定します。

インシデントプロジェクトをフィルター検索する

以下の情報に基づいてすべてのインシデントプロジェクトをフィルタリングすることで、目的にインシデントプロジェクトを簡単に探すことができます。


- インシデントプロジェクト内の、指定した日時の前または後に開始されたシーケンス
- インシデントプロジェクト内のシーケンスの時間範囲
- インシデントプロジェクトのID
- インシデントプロジェクトの説明のテキスト

インシデントプロジェクトをフィルター検索する：

1. **インシデント**タブを選択します。
2. 1つ以上のフィルターを使用して、特定のインシデントプロジェクトを検索します。
3. インシデントプロジェクトを選択します。

インシデントプロジェクトでビデオを表示する

オペレータおよび同僚は、インシデントプロジェクトに追加されたビデオを表示することができます。例えば、インシデントを振り返ったり、初めて確認したり、以前のインシデントプロジェクトのエビデンスを、おそらく関連するであろう新しいインシデントプロジェクトのエビデンスと比較したりする場合があります。

1. **インシデント**タブを選択し、表示したいビデオを含むインシデントプロジェクトをダブルクリックします。
2. **Sequence list (シーケンスリスト)** タブを選択します。
3. **View video (ビデオを表示)** ボタンを選択します。
4. ウィンドウの右下角にあるシーケンスのリストから、表示するシーケンスを選択します。
5.  を選択してビデオを前方へ再生します。

インシデントプロジェクトのユーザーアクティビティログを表示する

インシデントプロジェクトに変更が加えられると、VMSによってそのインシデントプロジェクトに関するログが記録されます。このログには、変更点、変更者、変更の保存日時が記録されます。

XProtect Smart Clientに表示されるアクティビティログエントリには、ユーザー操作に関する以下の日時情報が含まれます。

- インシデントプロジェクトの作成、編集、開示/読み込み。
- タイプ、ステータス、およびカテゴリの値の適用、変更。
- コメントまたは電話に関する情報の追加、編集、削除。
- エクスポート対象のインシデントプロジェクトの送信。
- インシデントプロジェクトレポートの生成、印刷。
- シーケンスの追加、削除。

アクティビティログを表示する

1. **インシデント**タブを選択し、開きたいインシデントプロジェクトをダブルクリックします。



特定のインシデントプロジェクトが探しにくい場合はフィルターオプションを利用できます。[ページ41のインシデントプロジェクトをフィルター検索する](#)を参照してください。

2. **Activity logs (アクティビティログ)** タブを選択します。
3. アクティビティログの内容を確認します。

インシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する

ユーザーは、インシデントプロジェクトに追加したすべてのテキスト情報を含むレポートを作成することができます。

レポートを作成すると、印刷したり保存したりできます。同僚や警察、その他の人に、インシデントプロジェクトのエクスポート物と共にレポートを送信することができます。エクスポートには、インシデントプロジェクトに追加されているシーケンスが含まれます。[ページ43のインシデントプロジェクトをエクスポートする](#)を参照してください。

1. **インシデント**タブを選択します。
2. レポートを作成するインシデントプロジェクトを選択します。
3. レポートを印刷または保存する場合は、**Print (印刷)** を選択します。

インシデントプロジェクトをエクスポートする

インシデントプロジェクトのシーケンスが、XProtectVMSに定義されている保存期間を過ぎると、レコーディングサーバーから削除されます。エビデンスとして、その期間よりも長い期間シーケンスが必要な場合は、保存期間が過ぎる前にそのインシデントプロジェクトをエクスポートします。

エクスポート対象としてインシデントプロジェクトを送信すると、そのインシデントプロジェクトのすべてのシーケンスが、**エクスポート**タブの**エクスポートリスト**に挿入されます。インシデントプロジェクトのシーケンスのエクスポートでは、**エクスポート**タブにあるすべての設定を利用できます。

エクスポート設定の詳細は、XProtect Smart Clientのユーザーマニュアルも参照してください。
(<https://doc.milestonesys.com/2022r3/ja-JP/portal/htm/chapter-page-sc-user-manual.htm>)。

インシデントプロジェクトに追加されているシーケンスをエクスポートする

1. **インシデント**タブを選択します。
2. エクスポートしたいインシデントプロジェクトを選択します。
3. **エクスポートのために送信**を選択します。

エクスポートタブが表示され、選択したインシデントプロジェクトのすべてのシーケンスが**エクスポートリスト**に追加されます。

4. エクスポートでご希望の形式とその他の設定を選択します。

エビデンスビデオを作成する方法の詳細は、XProtect Smart Clientのユーザーマニュアルも参照してください。
(<https://doc.milestonesys.com/2022r3/ja-JP/portal/htm/chapter-page-sc-user-manual.htm>)。

一般に、エクスポートの保存または共有では、同じインシデントプロジェクトに追加されたすべてのテキスト情報を含むレポートを保存または共有することもできます。[ページ43のインシデントプロジェクト情報からなるレポートを作成する](#)を参照してください。

インシデントプロジェクトを削除する

インシデントプロジェクトが不要になった場合は、削除することができます。削除を取り消すことはできません。

1. **インシデント**タブを選択します。
2. 削除したいインシデントプロジェクトを選択します。
3. **Delete (削除)** を選択し、確定します。



インシデントプロジェクトの削除について疑問点や不明な点がある場合は、プロジェクトを開いて情報を確認してから削除できます。またビデオシーケンスを表示して、削除対象として間違ったインシデントプロジェクトを選択していないか確認してください。

トラブルシューティング

XProtect Incident Manager（トラブルシューティング）

システムログファイル

XProtect Incident Manager用のシステムログファイルは、Management Serverシステムコンポーネントがインストールされているコンピュータにあります。システムログの場所は、C:\ProgramData\Milestone\XProtect Incident Manager\Logsです。システムエラーのトラブルシューティングが必要になった場合はこのログファイルを参照してください。

XProtect Smart Clientのメッセージ

シーケンスを追加できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼働しているかどうか確認してください。

インシデントプロジェクトを作成できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼働しているかどうか確認してください。

レポートを生成できません。後でもう一度お試しください。

このメッセージでは2つの原因が考えられます。

- a. VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼働しているかどうか確認してください。

- b. インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、XProtect Smart Clientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータによってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目、またはそのリスト項目に含まれる要素を編集しようとする、このメッセージが表示されます。

例えばオペレータがインシデントプロジェクトノリスとを開いているときに、別のオペレータがインシデントプロジェクトを削除したと仮定します。その場合、コンピュータ上のリストには削除されたインシデントプロジェクトが表示されますが、レポートを生成しようとするこのエラーメッセージが返されます。

このアクションは実行できません。リストを更新してください。

インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、XProtect SmartClientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータによってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目を編集または保存しようとする、このメッセージが表示されます。

このアクションは実行できません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

すべてのシーケンスを削除することはできません。後でもう一度お試しください。

VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

[x]を保存できません。後でもう一度お試しください。

このメッセージはコメント、電話に関する情報、または別の設定の保存を試みたときに表示されます。このメッセージでは2つの原因が考えられます。

- a. VMSサーバーとの接続が不安定です。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

システム管理者：ネットワークおよびすべてのVMSサーバー、サービスが稼動しているかどうか確認してください。

- b. インシデントプロジェクトリストとシーケンスリストがリアルタイムに更新されていない。このため、XProtect Smart Clientのオペレータがこれらのリストのいずれかを開いていたときに、別のオペレータによってそのリストから項目が削除された場合、その削除されたリスト項目、またはそのリスト項目に含まれる要素を編集しようとする、このメッセージが表示されます。
例えばオペレータがインシデントプロジェクトリストを開いているときに、別のオペレータがインシデントプロジェクトを削除したと仮定します。この後、削除されたインシデントプロジェクトをコンピュータから開くことはできますが、コメントや電話に関する情報の編集、インシデントステータスの変更、またはその他の操作を試みると、このエラーメッセージが返されます。

権限が拒否されました。

システム管理者によって機能に対する権限が付与されていません。この機能なしにタスクを完了できない場合は、システム管理者に連絡してください。

レポートが生成されましたが、含まれていない情報があります。

レポートの生成中にVMSサーバーまたはサービスとの接続が失われました。レポートにインシデントプロジェクトら
の一部情報が含まれていません。レポートを生成し直してみてください。

この情報は利用できません。

システム管理者によって機能に対する権限が付与されていません。この機能なしにタスクを完了できない場合は、システム管理者に連絡してください。

用語集

X

XProtect Incident Manager

XProtect監視システムのアドオンとして使用できる製品。XProtect Incident Managerなら、XProtect Smart Client以内にインシデントを文書化して管理できます。

あ

アクティビティログ

VMSで追加された、VMSでのユーザーのアクティビティを説明するログエントリ。

い

インシデント

組織のスタッフ、資産、運用、サービス、または機能の損傷、損失、混乱につながる可能性のある否定的または危険な行為または状況。

インシデントカテゴリー

インシデントに関するオプションの詳細。カテゴリーでインシデントに関するより詳細な情報を追加できます。インシデントカテゴリーには、インシデントのロケーション、共犯者の数、および当局の関与有無などが挙げられます。

インシデントタイプ

インシデントに関する詳細情報。タイプでそれがどのようなインシデントであるかを分類します。インシデントタイプの例を以下に挙げています。盗難、自動車事故、不法侵入。

インシデントのステータス

インシデントに関する詳細情報。インシデントステータスでインシデント調査の進捗を追跡できます。以下はインシデントステータスの例です。新規、処理中、保留中、処理済

インシデントのプロパティ

インシデントプロジェクトに対してカテゴリ、ステータス、タイプなど幅広いデータが定義できます

インシデントプロジェクト

インシデントに関するデータが保存されているプロジェクト。データには、ビデオ、音声、コメント、インシデントカテゴリー、およびその他のデータが含まれます。オペレータは、コメントを追加し、XProtect Smart Clientのインシデントプロジェクトに関連するインシデント特性を選択します。Management Clientでは、システム管理者は、インシデントプロジェクトを作成するときに、オペレータが使用できるインシデント特性を定義します。

インシデント管理

ネガティブな影響を伴う状況を迅速に修正して今後の再発を防ぐために、インシデントを識別、文書化、処理、および分析する組織のアクティビティ。インシデントも参照してください。

し

シーケンスリスト

XProtectVMSから発信されたビデオおよび場合によっては音声を使用した継続した録音/録画期間のリスト。

と

ドラフトシーケンスリスト

ビデオおよび場合によっては音声を使用した、継続した録音/録画期間の一時的なリスト。ユーザーは、1) 新しいインシデントプロジェクトを作成し、新しいプロジェクトにシーケンスを追加するか、2) 既存のインシデントプロジェクトにシーケンスを追加する最初のステップとして、ドラフトシーケンスリストにさまざまなシーケンスを追加できます。



helpfeedback@milestone.dk

Milestoneについて

Milestone Systemsはオープン プラットフォームの監視カメラ管理ソフトウェア (Video Management Software: VMS) の世界有数のプロバイダーです。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供します。は、世界の15万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つMilestone Systemsのソリューションにより、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプラットフォームコミュニティを形成します。Milestone Systemsは、1998年創業、Canon Group傘下の独立企業です。詳しくは、<https://www.milestonesys.com/>をご覧ください。

